

京都の景況について

内閣府が発表したGDPの速報値が、年率換算で4.6%増となり、景気の二番底の懸念は薄らいだという見方がある。内需にも回復の兆しがあるとはいえ、やはり、引き続き外需主導の構図は変わっていないようだ。外需と内需の両者間に大きな格差があり、内需拡大の施策が求められる。京都の上場企業の第3四半期の決算を見ても、アジアの需要が、企業収益の改善を牽引していることが明らかである。

また、日本銀行京都支店は金融経済概況で、景気の緩やかな持ち直しは、内外の政策効果によるものと表現している。中小企業が本格的に回復するにはもうしばらく時間がかかるのではないかと懸念している。政策効果と呼び水として、本格的に景気が立ち直り、中小企業の自律的な回復へとつながるよう期待している。そのためにも、鳩山政権には、まず新年度の予算の早期成立など、スピード感をもって施策を実行いただきたい。また、中長期的なビジョンを示し、国民や事業者の将来に対する不安を解消しなければならない。

京都商工会議所の動き

平成22年度事業計画の方針について

来年度の事業計画の骨格となる基本フレームが、先ほど開催した常議員会で承認された。平成22年度は、「ニュー京商ビジョン」3カ年計画の3年目の区切りの年となるので、基本方針の「知恵産業のまち・京都の推進」を次の段階へステップアップしていく年となるよう“「顧客創造」による新たな成長への挑戦”というサブタイトルを掲げ、顧客を創造し、新たな成長に挑戦しようとする中小企業に対して、総力を挙げてサポートしていきたいとの決意を表した。

「知恵産業創出支援」「アジア内需の取り込み支援」「地球環境問題への取組み」といった、3つのチャレンジ項目を積極的に推進することが、結果として会員企業の「顧客創造」につながると確信している。新規項目としては、中小企業に対する経営支援体制をさらに充実させること、深刻な雇用問題への取組みを推進すること、京都観光の質的転換を目指した取組みを推進することなどを盛り込んでいる。基本戦略に沿って具体的な取組みを進め、次期3カ年計画にあたる「ニュー京商ビジョン Ver2010」の策定につなげていくイメージである。

事業計画本体は、3月30日に開催する議員総会において正式に決定する。

「知恵ビジネスプランコンテスト」の審査結果と「京都・知恵ビジネス交流会2010」の開催について 記者配布資料

「知恵ビジネスプランコンテスト」には、51件の応募があり、審査会の結果、6件を「知恵ビジネスプラン」と認定した。京都の特性と企業独自の強みを活用して顧客創造を目指す、有望なプランばかりである。認定したプランは、専門家と連携しながら、経営支援員が中心となり、ハンズオン支援を行っていく。認定されなかったプランも、引き続き知恵ビジネスに誘引するような経営支援を実施する。

3月10日に「京都・知恵ビジネス交流会2010」を開催する。脚本家の小山薫堂氏より「アイデアこそ、この国の最大の資源！」をテーマに激励講演をいただく。また、「知恵ビジネスプランコンテスト」の認定プラン発表会を実施するなど、知恵産業のより一層の普及啓発を図る。

記者からの質問事項

「知恵産業の創造」3カ年の成果の分析や評価は？

3月30日の議員総会時に、これまでの年度ごとの経過報告と次年度の計画を披露したい。これまでは、ほぼ予定通りの進捗状況を示していると分析している。3年目の「発展」の姿をできるだけ早くご覧いただくということが、次のビジョンへの総括および反映にもなる。

(事務局から)

発展のステージでは、どのような成果を出すのか、数値目標を置いた上で、企業へのサポートに取り組んでいきたい。

デフレ環境下で、中小企業の仕事をいかに増やしていくか？

政府の成長戦略の中で、環境、農業、福祉、介護、教育、安心などの内需の分野に、早く来年度予算をつけてほしいという要望を会議所としても進めたい。中小企業の活性化に関する予算を早期に成立させることが、2番底を回避することにもなるし、次の成長にもつながっていく。

京都は観光産業の裾野が非常に大きい。国の観光政策の中でも京都が担う役割が非常に大きいので、観光の質的な転換を図る中で、1年間を通じて、強力的に京都の観光産業を盛り上げていきたい。それが伝統産業をはじめさまざまな業界の中小企業の活性化につながると捉えている。

(2010年度の事業計画のフレームにある)「京商ビル建て替えの検討」にどこまでの成果を求めるのか？
また、京都サンガF.C.の支援において「スタジアムの建設促進」はどのような見通しを持っているのか？

前者については、いまだ検討の域を出ていない。他の経済団体などとの調整も含めながら、来年度はなんらかの形が見えるような段階にまでまとめてみたい。

後者については、京都市など行政の動きを見ている段階である。

以上

知恵ビジネスプランコンテスト 結果報告

京都商工会議所では、知恵産業を推進することを目的に、知恵ビジネスプランコンテストを実施しました。51 申請プランのうち、京都の特性と企業独自の強みを活用することにより顧客創造を図る下記プランを知恵ビジネスと認定しましたので報告致します。

認定プラン

(企業名 50 音順)

事業所名・代表者	上羽絵惣 株式会社 代表取締役 上羽 豊 氏
プラン名	こがふん 胡粉ネイル(今までのマニキュアとは違う人に優しい爪に塗る化粧品)
概要	日本画や人形、神社仏閣の壁画、五色豆などに、白色顔料として使われる胡粉を活用したネイルケアの商品化。有機溶剤を使用しないことから、無臭で速乾性に優れるなど安全性が高いことが特徴で、今後は日本画材専門店の強みを活かした色彩の提案などを行う。
事業所名・代表者	共進電機 株式会社 代表取締役 小島久嗣 氏
プラン名	顧客満足度の高い一品受注システムの構築とそのブランド化による新エネルギー産業への進出
概要	設備開発の受注段階におけるクライアントとのコンセンサスを得るためのツール「K O P E Lシステム」の開発・導入。納品・設置までの効果確認、操作性・視認性・デザイン確認をPCの2D、3D画面で精緻に行い、設置後の後追い措置や手直し工程を低減することにより、顧客満足度と生産効率の向上を図る。
事業所名・代表者	株式会社 京都紋付 代表取締役 荒川 徹 氏
プラン名	伝統工芸の「京黒紋付染」の技術を用いて洋装素材を耐性のある深い黒に染め上げる技術の開発、黒染技術とともに和装の技術と意匠力を活かした「京都発ジーンズ」の商品化
概要	伝統ある和装の黒染技術を洋装素材に活用する「御黒染司」事業と、黒染技術のほか重ね染め技術、紋、京印伝など和装の意匠力を活かしたデニム事業「B L・W H Y (ビーエル・ホワイ)」を立ち上げ、京都発のブランドを創出する。
事業所名・代表者	株式会社 京のくすり屋 代表取締役 大橋俊矢 氏
プラン名	京都の地産素材、老舗とのコラボで Made in 京都 手づくり石けん開発
概要	今まで培ってきた漢方薬、薬草の知識を活かし、高品質、100%ナチュラル、京都テイストの石けんを製造販売する事業。店舗で製造販売する新しいスタイルの石けん屋で、地域活性の一端を担うことを目的に、徹底的に京都の地域素材による“Made in 京都”にこだわった商品提供を行う。
事業所名・代表者	有限会社 京フーズ 代表取締役 関 佳彦 氏
プラン名	マンガと食文化のコラボ「まんがレストラン(仮称)」事業 ～産・学・公・地 連携による公共施設の自立運営に向けて～
概要	京都精華大学や京都市、龍池学区自治連合会等の連携のもと、京都国際マンガミュージアムに、日本が世界に誇るマンガのコンテンツを料理や食器、食空間等に二次・三次利用するレストランをオープンする事業を行い、自立運営に向けた公共施設の活用を模索する。
事業所名・代表者	株式会社 八清 代表取締役 西村孝平 氏
プラン名	京町家宿泊体験施設
概要	有効に活用されていない京町家を潜在的な地域資源として捉え、旅館業営業許可を取得した宿泊施設として観光客に提供する新しい不動産収益のビジネスモデル。観光客に伝統ある京町家の魅力を体験してもらいつつ、減少していく京町家の保存・再生や景観の維持への貢献を目的とする。

本件担当

京都商工会議所 中小企業経営相談センター 知恵ビジネス推進室 TEL : 075-212-6470

知恵ビジネスプランコンテストの実施経過報告

目 的 知恵ビジネスの啓発・発掘・育成

公募期間 平成 21 年 12 月 7 日（月）～平成 22 年 1 月 20 日（水）

公募対象 京都の特性と企業独自の強みを活かしながら、新たな知恵によってオリジナルの技術や商品・サービス、あるいはビジネスモデルを開発し、“顧客創造”を実現する事業プラン

申請件数 51 件

審査基準

- ・知恵の使いどころが巧み（企画・構想の独自性、斬新さ）
- ・知恵の使いどころが与えるインパクト（社会・業界の波及度）
- ・知恵ビジネスの実現性（経営資源・成長性）

審査方法 書面審査 [平成 22 年 1 月 25 日（月）～平成 22 年 2 月 3 日（水）]

中小企業診断士によるプラン評価をもとに、中小企業診断士並びに事務局が書面審査を行い、51 件の申請プランの中から 14 プランを面接（プレゼン）審査に進む案件として選定。

実地調査 [平成 22 年 2 月 8 日（月）～平成 22 年 2 月 17 日（水）]

書面審査の通過案件に対して実態調査等を行うため、申請事業所を訪問したうえでプラン内容を聴取。

面接（プレゼン）審査 [平成 22 年 2 月 22 日（月）]

学識経験者、専門家、行政、産業支援機関からなる審査会において、14 プランの中から 6 プランを知恵ビジネスとして認定。

認定件数 6 件（詳細表面参照）

支 援 本所経営支援員が、事業化に向けた課題に合わせて専門家と連携しながら、プラン実現へのハンズオン支援を行います。なお今回、認定されなかった案件についても引き続き、知恵ビジネスへ誘引するような経営支援を実施します。

プラン発表会

京都・知恵ビジネス交流会（3 月 10 日）において、認定プラン発表会を開催し、プランの周知と知恵ビジネスの啓発を図ります。

京都・知恵ビジネス交流会2010 開催概要

1. 趣 旨 ニュー京商ビジョンに基本方針として掲げる「知恵産業のまち・京都の推進」に向け、この一年間の「知恵のチャレンジャー」の活動や「知恵ビジネスプランコンテスト」認定プランの発表を行なうことにより、知恵産業の一層の普及啓発および情報交換を図るため、「京都・知恵ビジネス交流会」を開催する。
2. 日 時 平成22年3月10日(水) 15:00～18:30
3. 場 所 京都大学 百周年時計台記念館「国際交流ホール」(2階)
[京都市左京区吉田本町 京都大学 本部構内 正門正面]
4. 定 員 300名
5. 参加費 無料 ビジネス懇親会参加者は参加費(2,000円)
6. 次 第
 - 開場1時間前から、知恵のチャレンジャーネットワーク登録事業者を紹介したポスターを展示(50社程度)
 - (1)開会挨拶 (15:00～15:10)
京都商工会議所会頭 立石義雄
 - (2)激励講演 (15:10～16:10)
「アイデアこそ、この国の最大の資源！」
講師:小山 薫堂氏(放送作家、脚本家)
米アカデミー賞受賞作品「おくりびと」の脚本の他、TV「カノッサの屈辱」「料理の鉄人」などで知られる。また、執筆活動や、ラジオパーソナリティなど多様な活動をしている。
 - (3)知恵ビジネスプランコンテスト認定プラン発表 (16:10～17:10)
審査講評 龍谷大学経営学部長 教授 佐藤研司氏
平成21年度知恵ビジネスプランコンテストの認定事業者によるプレゼンテーションを行う。
 - (4)ポスターセッション (17:10～17:30)
会場に、参加各社の事業概要や知恵・強み、挑戦内容等を掲載したポスター(50社程度)を掲示し、情報発信するとともに、参加者同士の情報・意見交換、相互啓発を図る。
 - (5)ビジネス懇親会 (17:40～18:30)
ポスターセッション会場で、参加各社との商談や連携を目的とした交流を行なう。
7. 主催 京都商工会議所
8. 共催 京都府、京都市(予定)
9. 後援 財団法人京都産業21、財団法人京都高度技術研究所(予定)

本件担当

京都商工会議所 産業振興部 ブランド推進担当 TEL:075-212-6450